

八戸広域ビジョンの提案 ワークショップ^o

2017/2/23

参加学生

- 東京大学大学院都市工学専攻（福田峻、BHARULE Shreyas、笹岡翠、竹内啓、西牟田章士、SIRIKHAN Kulacha、何 瑶、SIGDEL Bindu）
- 東京大学都市工学科（植田翔大、奥澤理恵子、小原寛士、木村達之、島村浩太）

担当教員

- 東京大学大学院都市工学専攻・准教授 城所哲夫
- 支援教員：長崎大学水産・環境科学総合研究科（環境科学領域）
准教授 片山健介

テーマとスケジュール

八戸を中心とする地域における広域連携をテーマとして、3つの班に分かれて、まちづくり・地域づくりに関わる構想を提案した。

サブテーマ

1. 自然・歴史・文化
2. アート&カルチャー
3. イノベーション

スケジュール（2017年2月21-23日）

2月21日

13:00-18:00 ワークショップ@はっち

18:00-20:00 懇談会@まちぐみラボwithまちぐみの方々、市民の方々

2月22日

8:00-14:30 バス視察:八戸中心街-陸奥湊朝市-八戸港-久慈市中心街・アンバーホール-
おおのキャンパス-南郷文化ホール-五戸中心街-八戸インテリジェントプラザ

15:00-21:00 ワークショップ@はっち

2月23日

8:00-16:00 ワークショップ@はっち

16:00-18:00 ワークショップ結果の現地発表会@はっち

テーマ1 自然・歴史・文化 精神の源流に向き合う巡礼路の提案

大地を歩く

精神の源流に向き合う巡礼路

内容

1.立案の背景・目的

2.巡礼路の提案

1. 東北の再解釈
2. 既存の巡礼路
3. 巡礼路の視点
4. 具体的な巡礼路
5. 巡礼路の開拓方法

3.巡礼体験の例

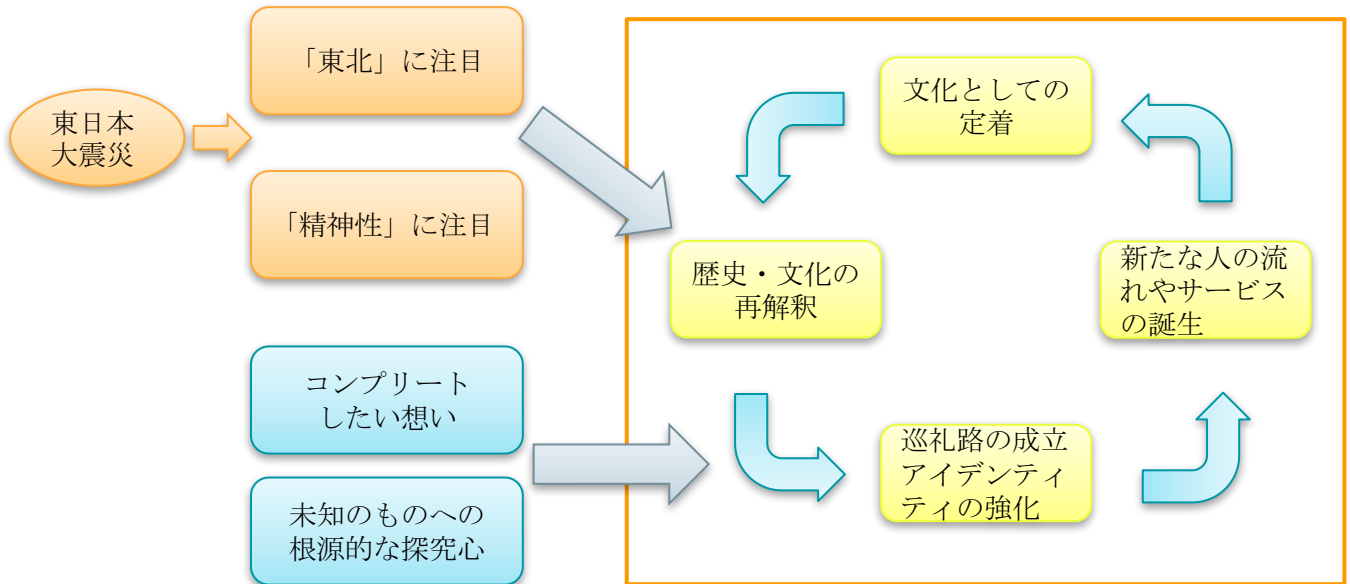
1. 生活文化・郷土料理・伝統工芸・イベント・産業・自然

4.新文化の創造

1. 交通・宿・食・装束
2. 新文化創造のための取り組み

5.実現に向けて

1.1 立案の背景・目的



2.1 東北の再解釈

縄文文化→エミシ文化→奥州藤原文化

エミシ＝縄文人であり、奥州藤原氏もエミシの末裔である
東北の文化の源流は縄文人に見ることができるのではないか

「精神性」に関する興味を喚起させるスポット、あるいは
道が多く存在

江戸以降の文人や研究者による探訪（松尾芭蕉や吉田松蔭など）

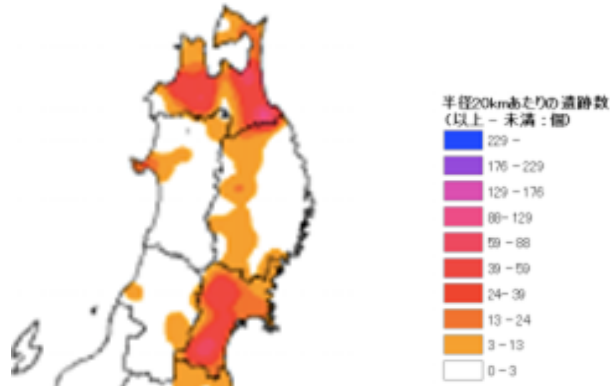
旧来から残る雄大な自然

寺社仏閣

2.1 東北の再解釈

縄文遺跡の分布密度

宮城近辺→岩手西部→青森東西というラインが見えてくる。
西方の秋田・山形はスポット的に点在。



出典：枝村・熊谷(2009)「縄文遺跡の立地性向」 Theory and Applications of GIS, 2009, Vol. 17, No.1, pp.63-72

2.2既存の巡礼路

既存の巡礼路

東北36不動尊—煩惱を絶ち、心のやすらぎをもたらす各県の不動尊
(道場)を巡る

山形県—布施波羅蜜(安心を得て癒す)の道場

秋田県—持戒波羅蜜(仏の教えを守る)の道場

青森県—忍辱波羅蜜(苦難を耐え忍ぶ)の道場

岩手県—精進波羅蜜(仏の教えを実践する)の道場

宮城県—禪定波羅蜜(精神を統一する)の道場

福島県—智慧波羅蜜(仏の功德を得る)の道場

奥の細道—東北南部を舞台にした芭蕉の足跡

白河の関以北、平泉を北端とした東北地方南部への行脚

芭蕉の旅も日本の源流を求める旅だったのではないか？

津軽三十三観音

津軽藩制初期の霊場を巡る

2.3 巡礼路の視点

時代・宗教に限定されず、東北が蓄積してきた歴史を感じつつ巡礼する

徒歩・自動車・公共交通等さまざまなアクセスを有し、複数回に分けて訪問することを可能に

訪れるべき地点とを自分で設定し、細かなルートを自由に選択

2.3 巡礼路の視点

巡礼で使用するサービス施設

宿/最低限の訪問スポット

交通アクセス-新幹線・東北自動車道

東北自動車道

はやぶさ(普通)

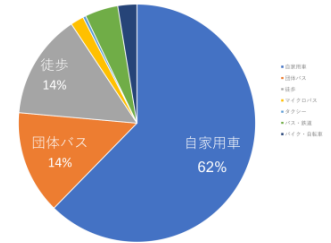
郡山・福島・仙台・盛岡・八戸・新青森(秋田新幹線)

はやぶさ(一部停車)

(古川・くりこま高原・一ノ関・水沢江刺・北上・新花巻・いわて沼宮内・二戸・七戸十和田・奥津軽いまべつ・木古内)

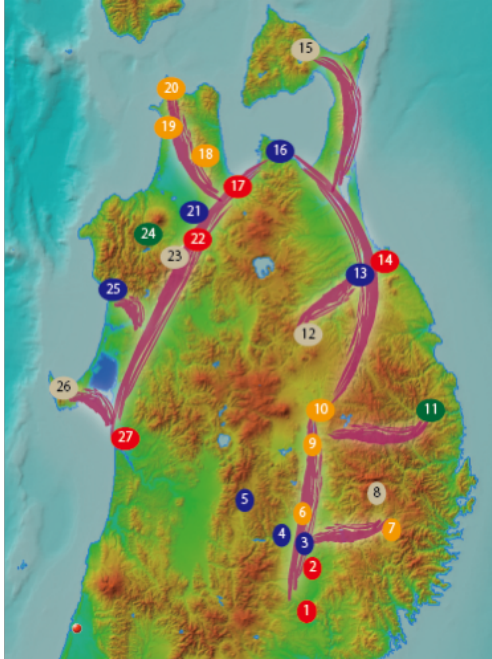
→ルートの一部が駅・高速道と接することで、巡礼を再開可能に

四国お遍路の利用交通手段



出典「四国遍路の魅力～人はなぜ遍路に出るのか～」(2012) 山川 廣司

2.4 具体的な巡礼路



エミシの精神文化を探る

①毛越寺 ②胆沢 ④八戸 ⑦②青森・弘前（ねぶた）⑦秋田（なまはげ）

エミシの生活を偲ぶ

③江釣子 ④和賀 ⑤沢内 ⑬是川 ⑬平内 ⑬青森（三内丸山）
②①亀ヶ岡 ②④白神（マタギ）②⑤八森

文人の足跡から文化の源流をたどる

⑥花巻 ⑦遠野 ⑨盛岡 ⑩渋民 ⑬金木 ⑬十三湊 ②⑩竜飛崎
信仰を学ぶ

⑧早池峰神社 ⑫天台寺 ⑮恐山 ②③久渡寺 ②⑥真山神社

太古の自然を感じる

①①龍泉洞 ②⑩竜飛崎 ②④白神

各地のポイント

毛越寺：藤原三代は大和朝廷の東北侵略に対して戦ったエミシ（縄文人）の酋長アテルイの子孫の親族

胆沢：エミシの住む辺境地域、8世紀には朝廷が3回にわたって征服を試みる。最終的には坂上田村麻呂率いる朝廷軍が勝利し、胆沢城が建設される。

江釣子古墳群（江釣子村・和賀町）：江戸時代から「蝦夷塚」として知られる。

沢内村：マタギが宿泊休憩・狩猟の際の待機場所に使用されたと
言われる洞窟。

遠野・渋民：柳田邦男・石川啄木と東北観

ねぶた：坂上田村麻呂の蝦夷征伐に起源がある

なまはげ：坂上田村麻呂に殺された蝦夷の霊魂を祀る

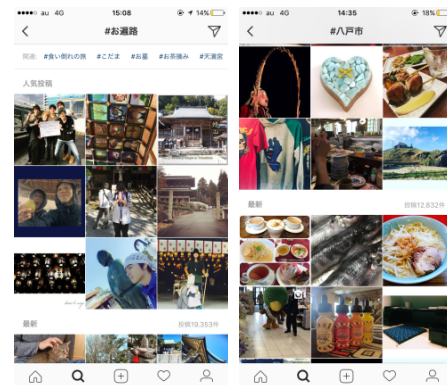
2.5 巡礼路の開拓

SNS等を通して、個人間で草の根的に地元
の人・スポット・宿の情報が拡大

→けものみち的に他者がその足跡をたどる

→メディア等で紹介されムーブメントに

→受け入れ側にも経験の蓄積がなされ、来
訪者との交流により新たな文化が創出



▲ 関連のInstagramタグ例

3.巡礼体験の例

- 人に触れ、生活を体験する
- 郷土料理を食べる
- 伝統工芸品に触れる
- イベントに参加する（祭など）
- 地域の産業を体験する（農家民泊など）
- 自然を体感する
- ボランティアをする
- その他の名所を訪れる

4.1新しい文化の創造

①交通：大地を歩く

大地を歩き、自然の精神性を体感する

→あぜ道、農道、山道、雪の積もった道路、道中での交流

手作りの立て看板や案内、道程を示す石を探す・たどる。

巡礼者自身も足跡を残して行くことで道ができる。

→現代版のけものみち



4.1新しい文化の創造

②宿：宿文化の創造

当日予約可、どこにでもある

巡礼路には、それを支える宿文化あり

ex)宿坊（四国のお遍路）、アルベルゲ（サンティアゴの道）

当日でも飛び込みで入られるマークの設置

参考）キューバのカサ・パルティクラル

特徴的な宿泊地の提供

宿坊、民泊、ホテル、道の駅、トラック、野宿、廃墟、廃工場、廃線駅

交流の窓口

個人の住宅を活用する民泊

→ホスト間で巡礼に関する地域情報を共有

ホスト自身も地域・歴史について学ぶきっかけに

子どもの自立等で空いた部屋を持つ人も地域的に多いはず

→都市部以上にホームステイ型民泊に有利

4.1新しい文化の創造

③食事：地のものを食す+α

地元食材のファンを増やす

→ 食事にストーリーを持たせる！

住民が振る舞う家庭料理を食べに行く

家庭料理こそ究極のローカル

背景 定食を提供する場所が少ない現状。

初期投資を抑えた基盤整備の必要性

例) **Kitchhike** 一般の人の家にご飯を食べに行く

巡礼者が自ら収穫し食べられる区画を街道沿いの田・畑
に設定

長大な巡礼地。収穫物にも地域の個性あり

支払いはスマホ

支払を済ませると「収穫印」を獲得

4.1新しい文化の創造

④装束文化の創造

縄文装束の現代化

靴を見ると地元の人か外部かを見分けられる

→「靴」を現地調達する文化

お遍路装束。1920年代に始まったものだが、今ではお遍路の重要な文化の一つになっている（<http://www.88shikokuhenro.jp/supplies.html>）

効果

巡礼者の旅情を掻き立てる（精神面）

巡礼者の安全を確保（機能）

4.2新しい文化の創造

新文化創造のための取り組み

巡礼アクティビティを支える「組織」に求められる取り組み

①大地を歩く

立て看板、案内、石を先行して設置。住民・巡礼者の自発的な活動を促す

②宿文化の創造

宿利用者へ提供する情報（歴史・食事処・安全等）の発信・共有

③地のもを食す

自由な収穫を認める田畑部分の管理に関するガイドランスの設定

④装束文化の創造

過去の装束に関する知見の活用、ファッショナブルに見せる現代性、歩きやすさや健康・安全を確保する機能性、低コスト

5. 実現に向けて 発信拠点としての八戸

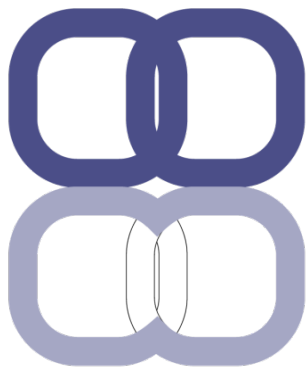
八戸はエミシが最後まで残った地であり、今も遺跡などにその文化が垣間見える

→発信地や主体として縄文の道を主導できる



テーマ 2 **Art & Culture**

八戸拡大アート都市圏構想の提案



エクспанション・ オブ・はっち

2017/02/23

笹岡 翠

奥澤 理恵子

Bindu Sigdel

Kulacha Sirikhan

Shreyas Bharule

1. ANALYSIS | 分析

提案にむけての問題意識

- アート・文化によるまちづくりを推進する八戸、
その周辺地域の課題：
 - アートプロジェクト・文化施設の
相互関係・結びつきの薄さ

- 社会背景・課題：
 - 若者の減少・流出

八戸市内のアート・文化の施設や資源

八戸市中心市街地

旧南郷村

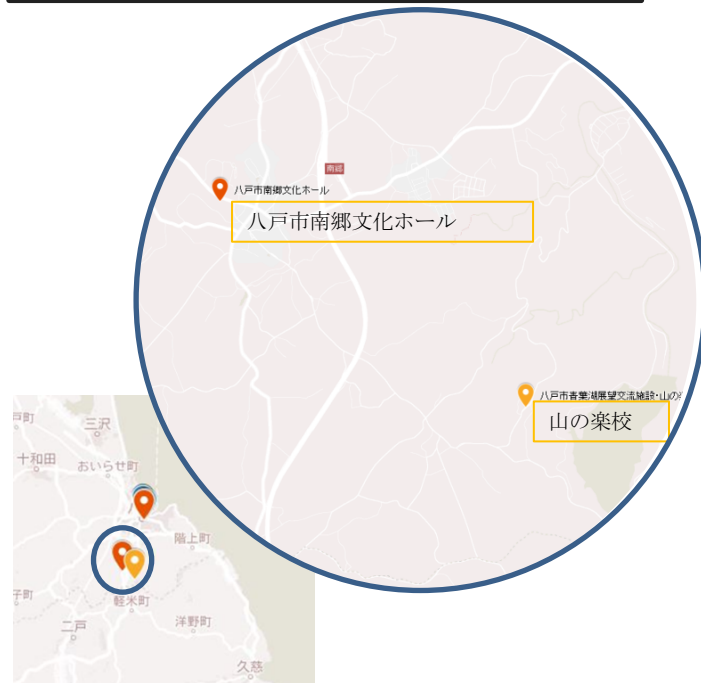
八戸市（中心部）でのアート・文化施設

- はっち
- 八戸市美術館
- 八戸ブックセンター
- 八戸工場大学
- アーティストインレジデンス
- 「本のまち」「写真のまち」



南郷エリアでのアート・文化の施設やイベント

- 八戸市南郷文化ホール
- 南郷アートプロジェクト
- 南郷サマージャズフェスティバル



八戸のアートにかかわる「ひと」

- ・ 市民ジャズミュージシャン
- ・ モダンダンス,
ストリートダンス...

たくさんのスタジオ、舞台、
県立八戸東高校 表現科

- ・ ビジュアルアート

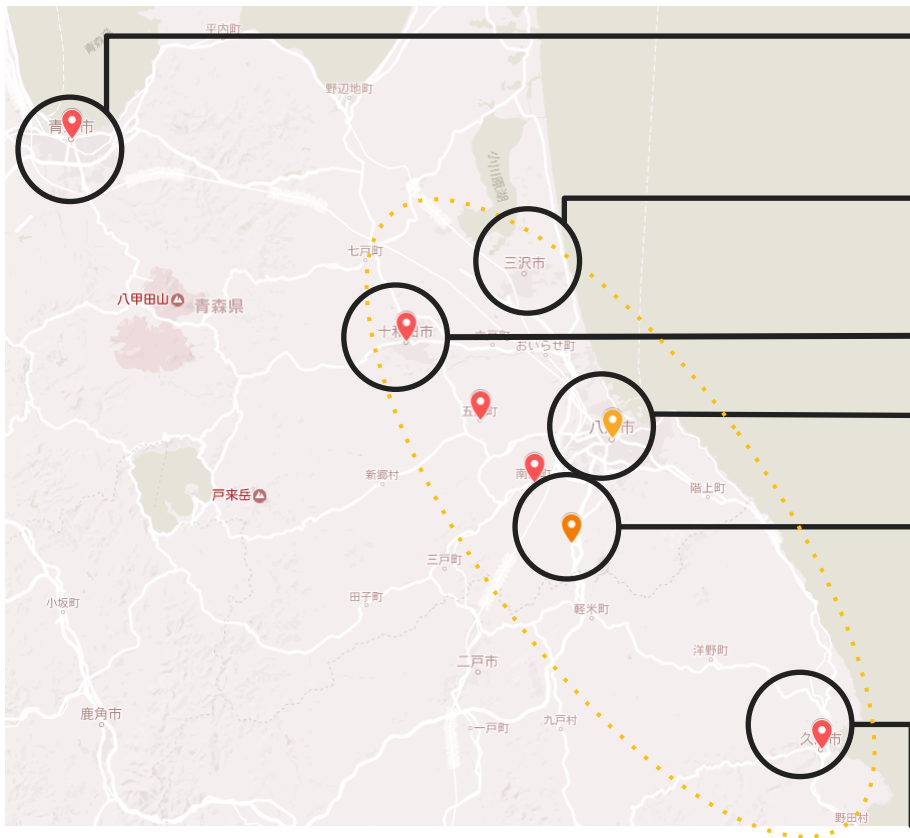
八戸工業大学感性工学科
ビジュアルデザインコース

- ・ まちぐみ : まちづくりにかかわるひと

- ・ 八戸市 :
まちづくり文化推進室
- ・ 八戸市でのプロジェクトに
かかわるアーティストや
市民

八戸で、アートの活動に携わっているひとは多く、
人的資源・環境がととのっている

八戸周辺のアート・文化の施設や資源



青森市

- 青森県立美術館
- 国際芸術センター青森

三沢市

- 三沢市寺山修司記念館
- Misawa Art Project

十和田市

- 十和田市現代美術館
- アーツ十和田

八戸市

- はっち
- 八戸市美術館
- 八戸ブックセンター
- 八戸工場大学
- アーティストインレジデンス
- 「本のまち」「写真のまち」

南郷エリア

- 八戸市南郷文化ホール
- 南郷アートプロジェクト
- 南郷ジャズフェスティバル

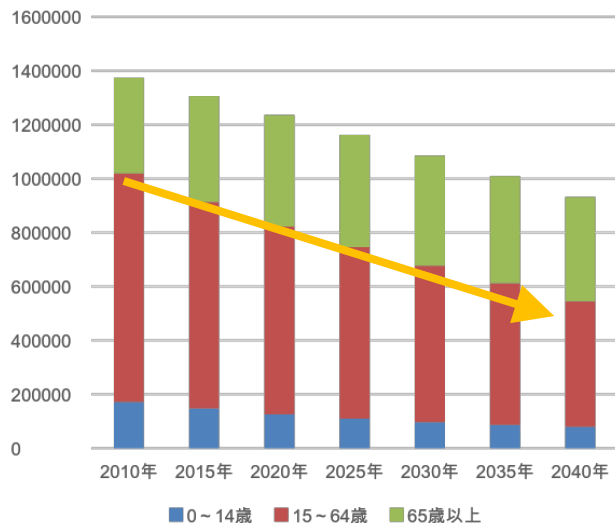
久慈市

- アンバーホール
- あまちゃん（ドラマの舞台）

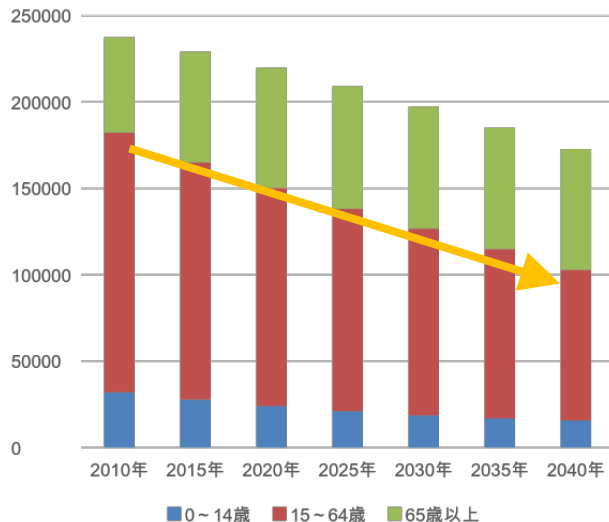
社会背景：

若年層の減少・ 全体における割合の変化

青森県 将来人口推計



八戸市 人口推移 (予測)



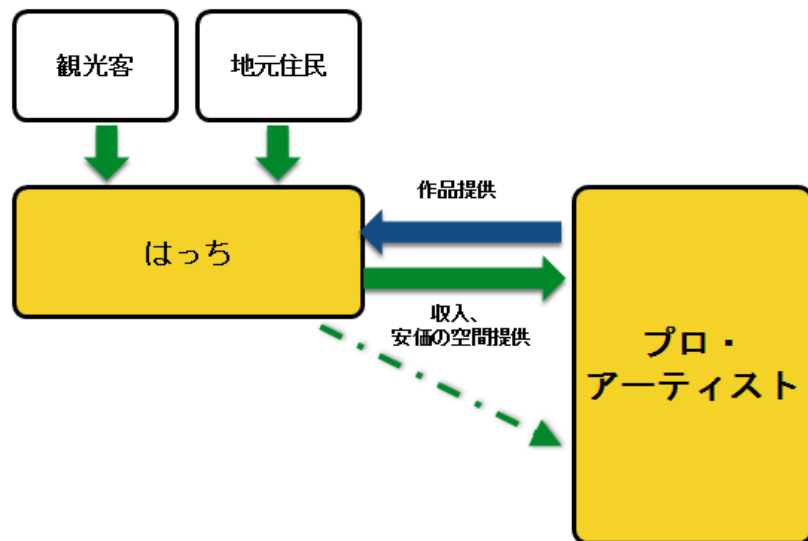
提案にむけての問題意識

- アート・文化によるまちづくりを推進する八戸、
その周辺地域の課題：
 - アートプロジェクト・文化施設の
相互関係・結びつきの薄さ
- 社会背景：
 - 若者の減少・流出

2. Plan | 提案

八戸モデル

八戸市では、アーティストを巻き込んだまちづくりの先進モデルが機能している。



はっち「ものづくりスタジオ」



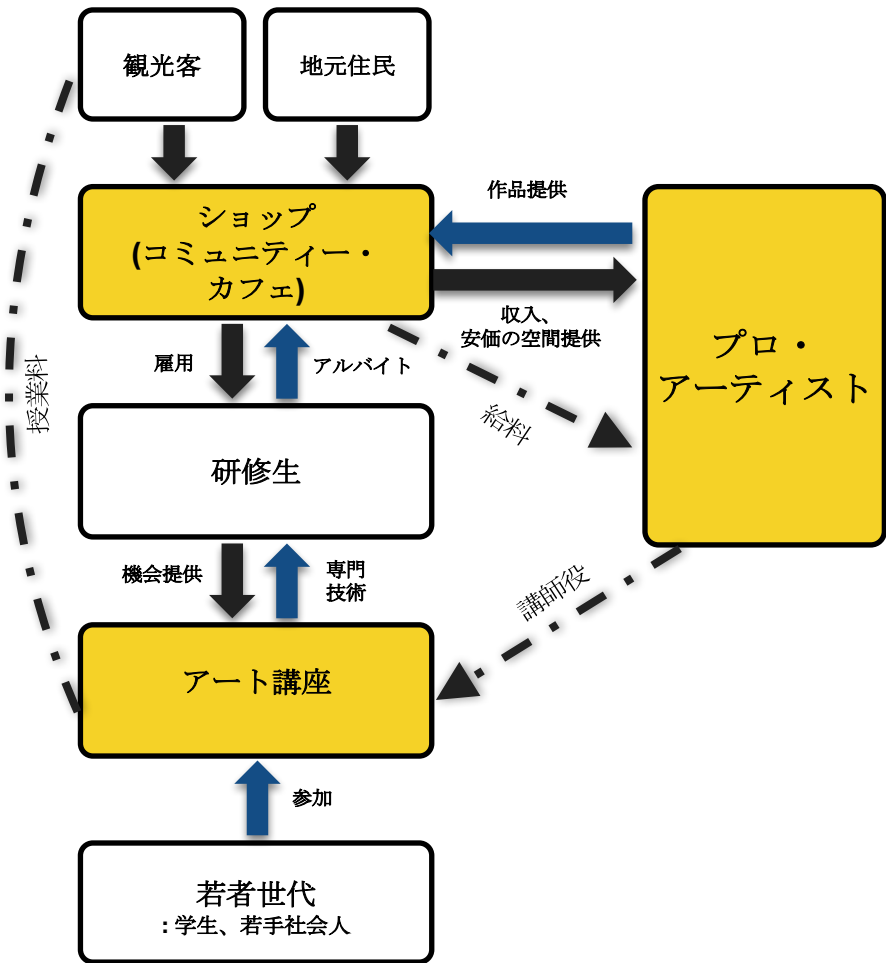
はっち



プロ・アーティスト

八戸発 : はちの巣モデル

テーマ2 (Art & Culture)



ショップ (コミュニティー・カフェ)



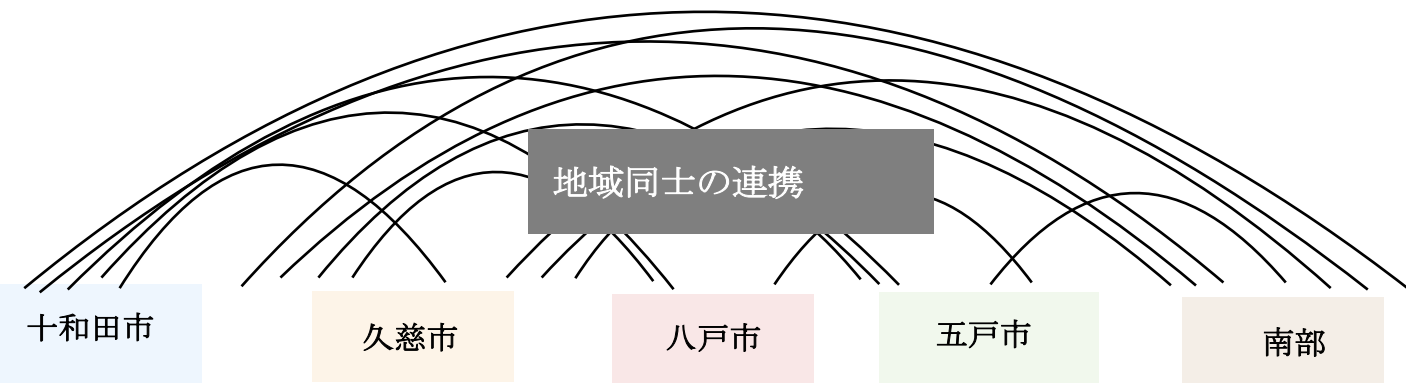
プロ・アーティスト



アート講座

連携アート都市圏の形成

八戸市を起点として、「はっち」の機能を拡大させながら、アートについて都市間での連携を進める。



「はっち」機能拡大

連携アート都市圏のあり方

テーマ2 (Art & Culture)

連携アート都市圏の形成

アドバイザー

政府

補助金

八戸
久慈
五戸
南部
十和田

教育期間
アーティスト
NPO
スポンサー

委員会

「はっち」機能拡大

アートまちづくり
ビジュアル・アート
映像制作
音楽
メディア・アート
クラフト・アート

情報の集約・発信

コーディネーター

- ・ アート・プロジェクトの開催

- ・ コミュニティー・カフェ運営
- ・ その他既存施設の利活用

- ・ 既存**SNS**活用:
Facebook/Twitter etc.
- ・ ウェブ発信
- ・ アプリ活用

具体的施策

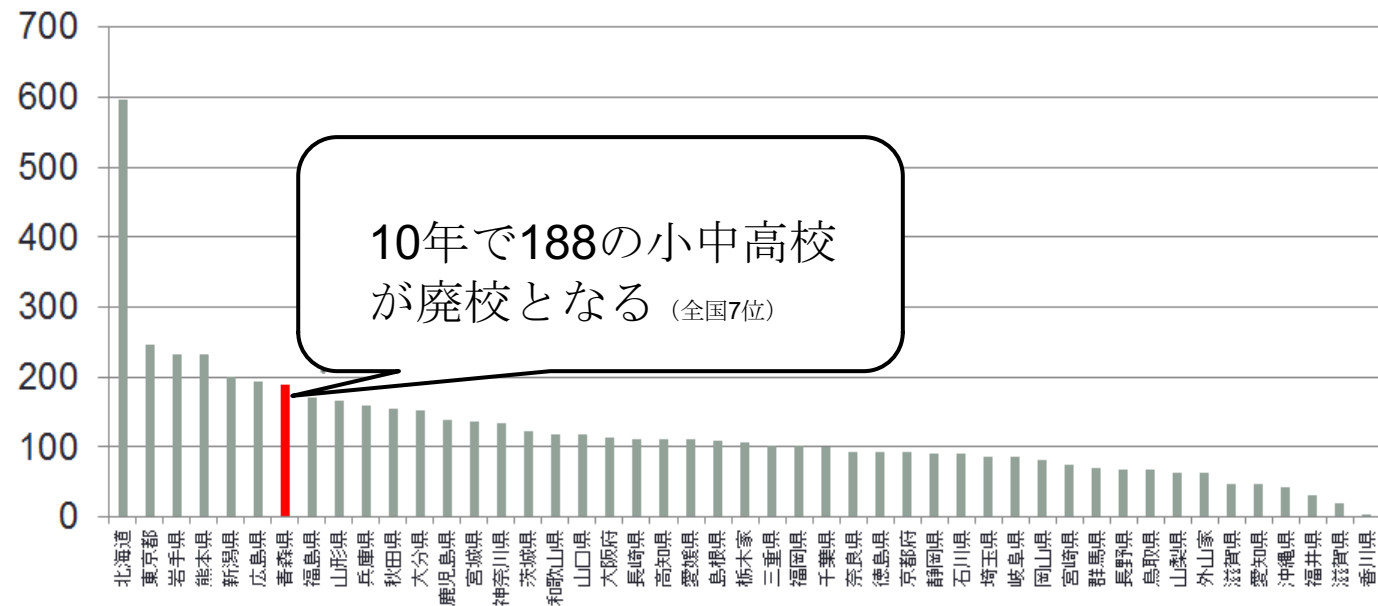
アート情報の一元化

連携の第一歩：アプリケーション（“アート∞”）の開発

- カテゴリーごとにアートの“今”を発信
- 位置情報でも検索可能
- 通知機能で、散歩中にイベント情報をゲット



廃校活用の可能性

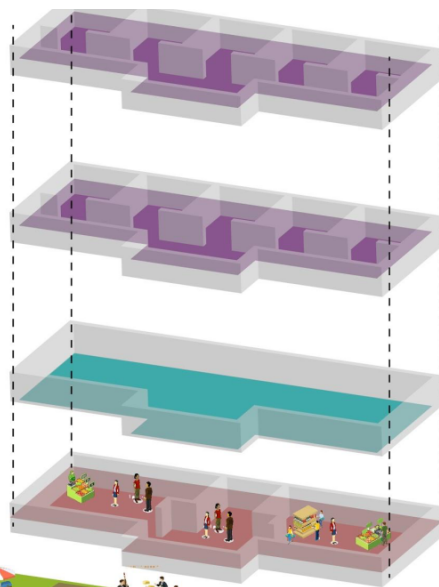


都道府県別廃校数 (2004~2013年)

出典：文部科学省「廃校施設の実態及び有効活用状況等調査研究報告書」

廃校活用のクリエイティブセンター

アート拠点のない地域に、「山の楽校」(写真)のような廃校リノベーションを進める。



Floor 3: シェア・ロジ
Floor 4:

Floor 2: レクチャー・ルーム

Floor 1: コミュニティー・
カフェ

Outdoor: ステージ施設

菜園

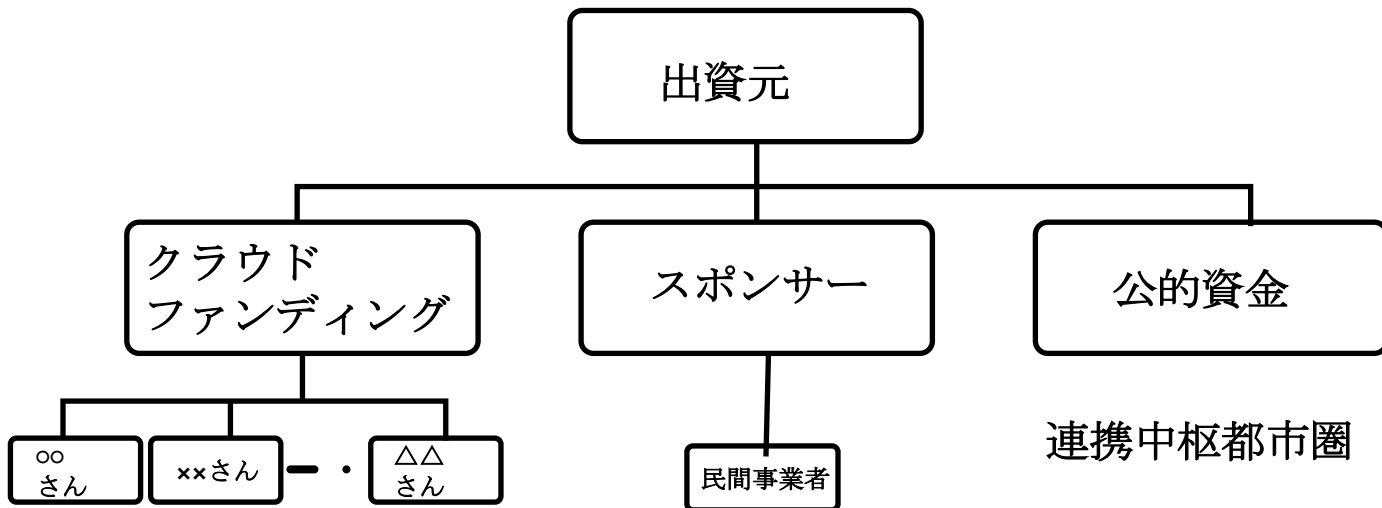
連携アート圏形成に向けて

連携中枢都市圏事業としての可能性

- はっちの機能拡大（八戸市）
- 廃校リノベーション事業（近隣市町）

廃校活用クリエイティブセンターの 実現モデル

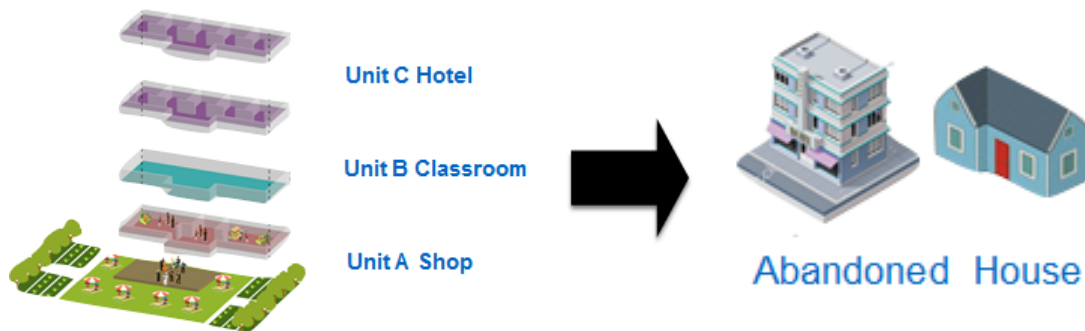
アート拠点のない地域に、出資者を募りながら、
廃校リノベーションを進める



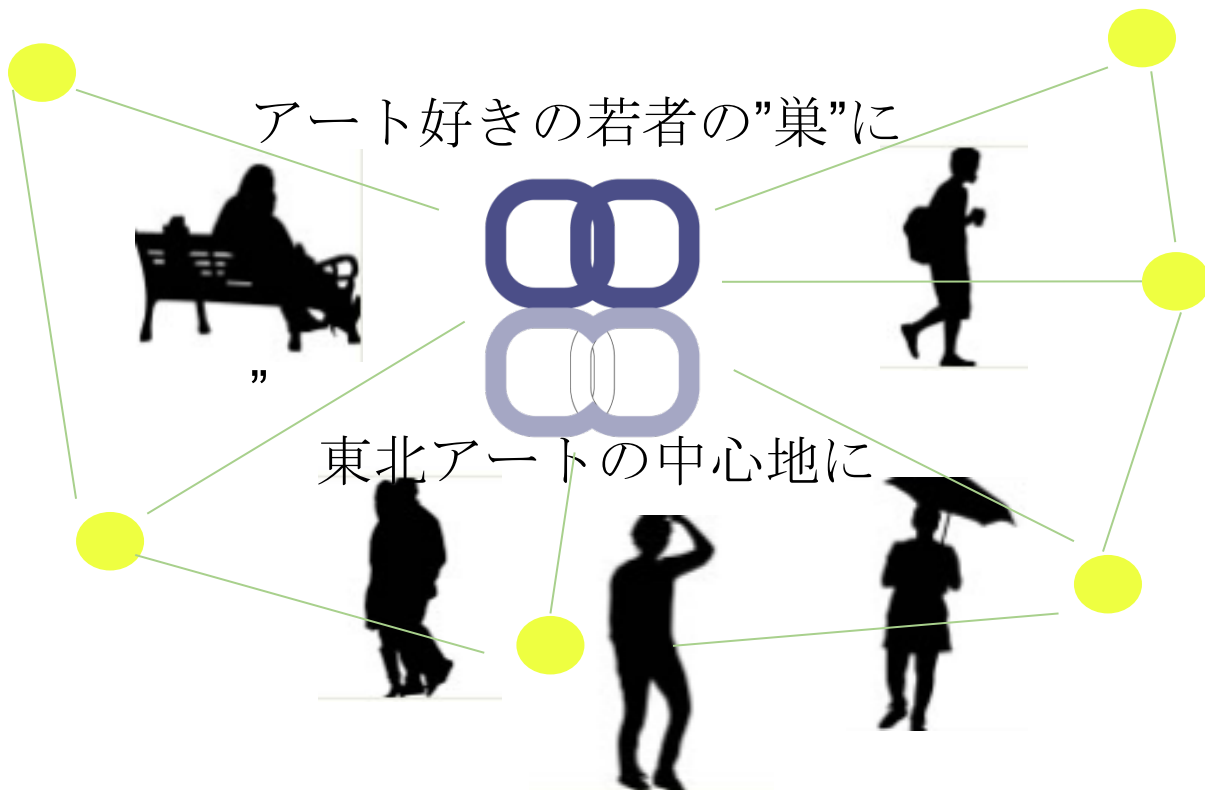
シェア・ロジの拡大

空家・空き店舗の活用 (ハウス・シェアリング)

- 廃校活用クリエイティブセンターの
集客成功に伴いセンター外にも拡大
- 圏域全体の共通課題である空家・空き店舗にアプローチ



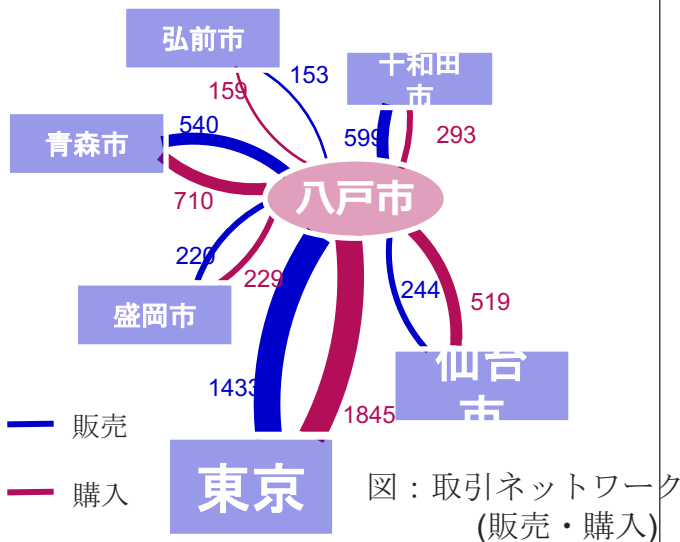
そして八戸は...



テーマ3 イノベーション
八戸連携中枢都市圏クリエイティブ・コア
形成構想の提案

さんぱち (八戸ハックハブ)

産業面の課題-1



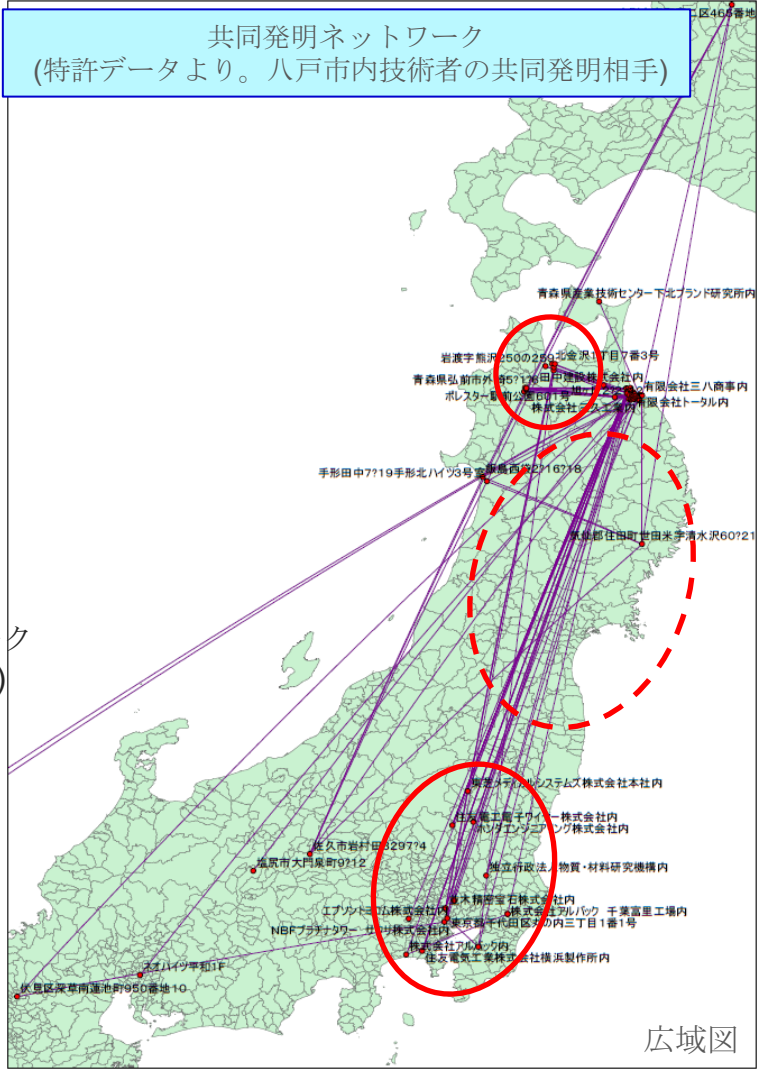
図：取引ネットワーク
(販売・購入)

日常のネットワークは上北・岩手北部まで広がっている

⇒ イノベーションのネットワークは...

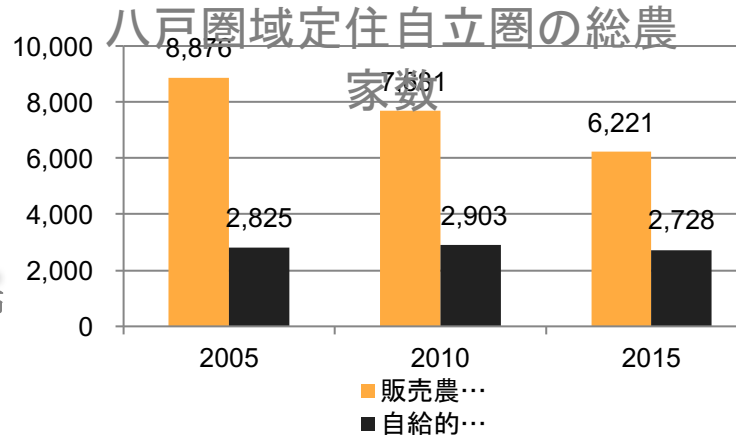
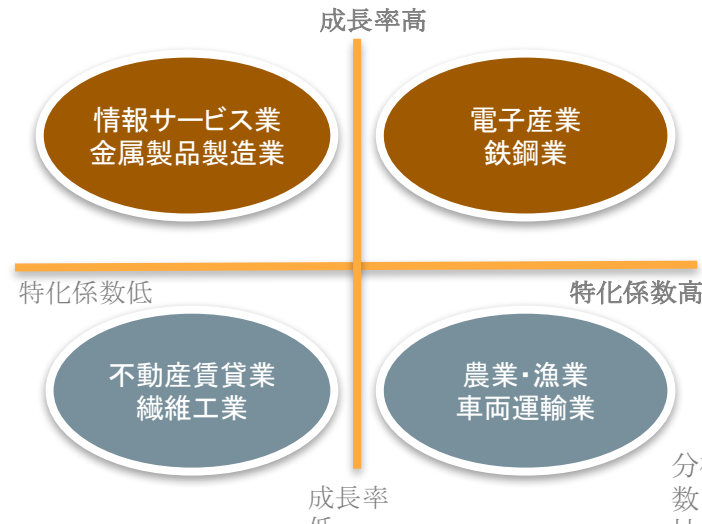
- ◆ 八戸中心部がネットワークから孤立
- ◆ 岩手県・宮城県との連携が進まず

共同発明ネットワーク
(特許データより。八戸市内技術者の共同発明相手)



産業面の課題-2

- 農業への特化傾向がみられるが、成長率は概ね低い
(cf.盛岡市は従業者が増加)
 - 電子・機械・情報の産業の成長率が高いが情報サービス業はまだ特化しておらず成長の余地がある
- 八戸の情報産業などの分野を大学と連携しながらより一層活かしていくべき

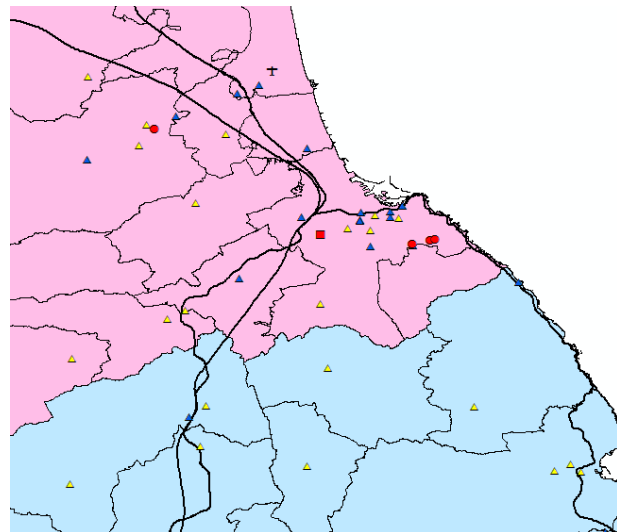


分析手法：圏域内の産業中分類別従業者数(H26)から特化係数と成長率(H21比)を計算。従業者数500人以上の分類から抽出

教育の分析・課題

- ・八戸市内には特色ある専門的な教育機関や学生が集まっている
- ・対して近隣町村では少ない
- ・三沢、十和田、久慈などには専門的な学校があるが、やはり八戸の集積が大きいのでこのスケールでの連携が有効
- ・しかし学校や通学範囲の枠を超えた連携は少ない

高校生徒数(2010年国勢調査)



八戸近隣の高等教育機関の分布

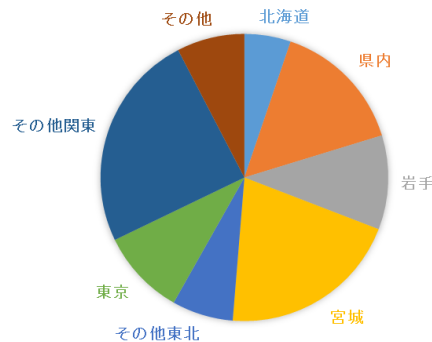
- 大学・短大
- 高専
- ▲ 普通科以外がある高校
- ▲ 普通科のみの高校

若者の地域からの流出

・高校、大学等卒業生の地域からの流出（18・20・22歳が転出超過の6割を占める）

・大学進学で東京や仙台に行った若者が地域にあまり戻ってこない（少しは戻ってきているので支援策などやりようがある？）

八戸高校卒業生が進学した国公立大学の立地(2014-2016、八戸高校ウェブサイトより)



八戸市の転出入超過相手(2015年)



コンセプト

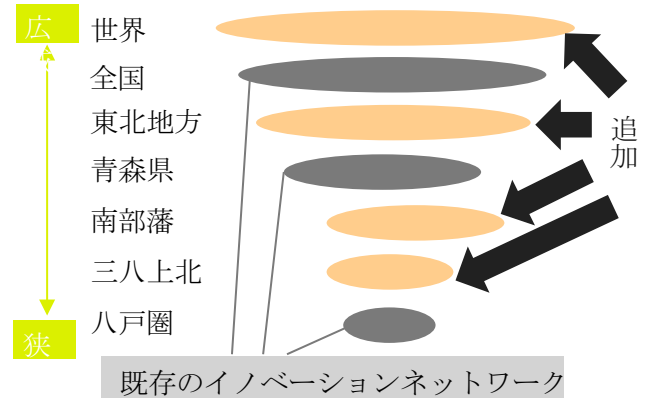
テーマ3 (イノベーション)

・IT分野に注目

成長している分野であり、地域全体に散在するネットワークが構築可能

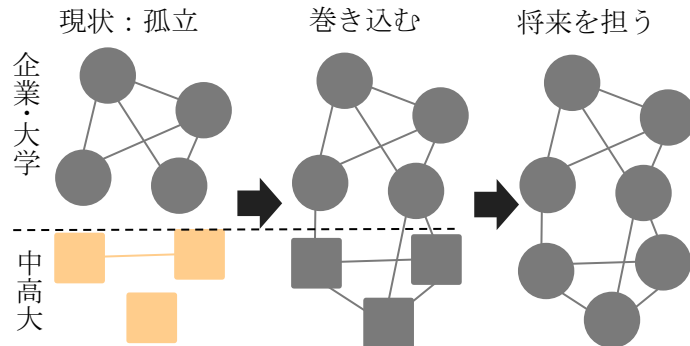
・新たな地域間のつながり

- ・全国、県内に偏ったイノベーションネットワーク
- ・圏域内の交流、外部との連携を促進
- ・多様なスケールでのイノベーションが展開



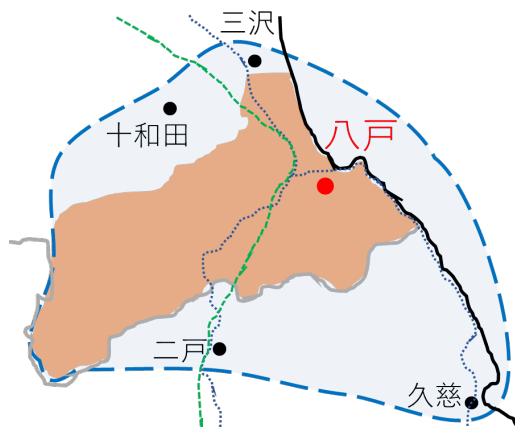
・中高大生を巻き込む

- ・現状では自分の学校の中だけで学習している中高大生
- ・技術やビジネスへの接触、別の学校の生徒/学生との交流の機会を提供
- ・将来地域の経済を担う人材に

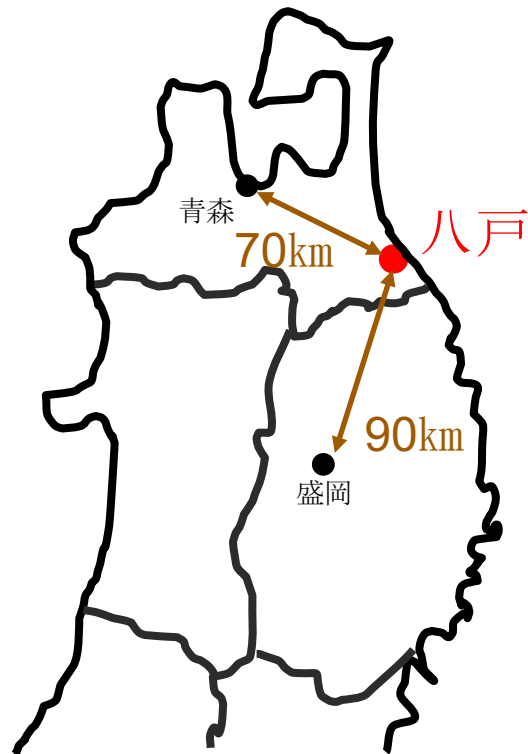


圏域設定

- ・八戸は両県の間位置し、県際的な圏域を形成するのに最適
- ・岩手県や上十三地域の自治体に働きかけ連携中枢都市圏を拡大



拡大連携中枢都市圏

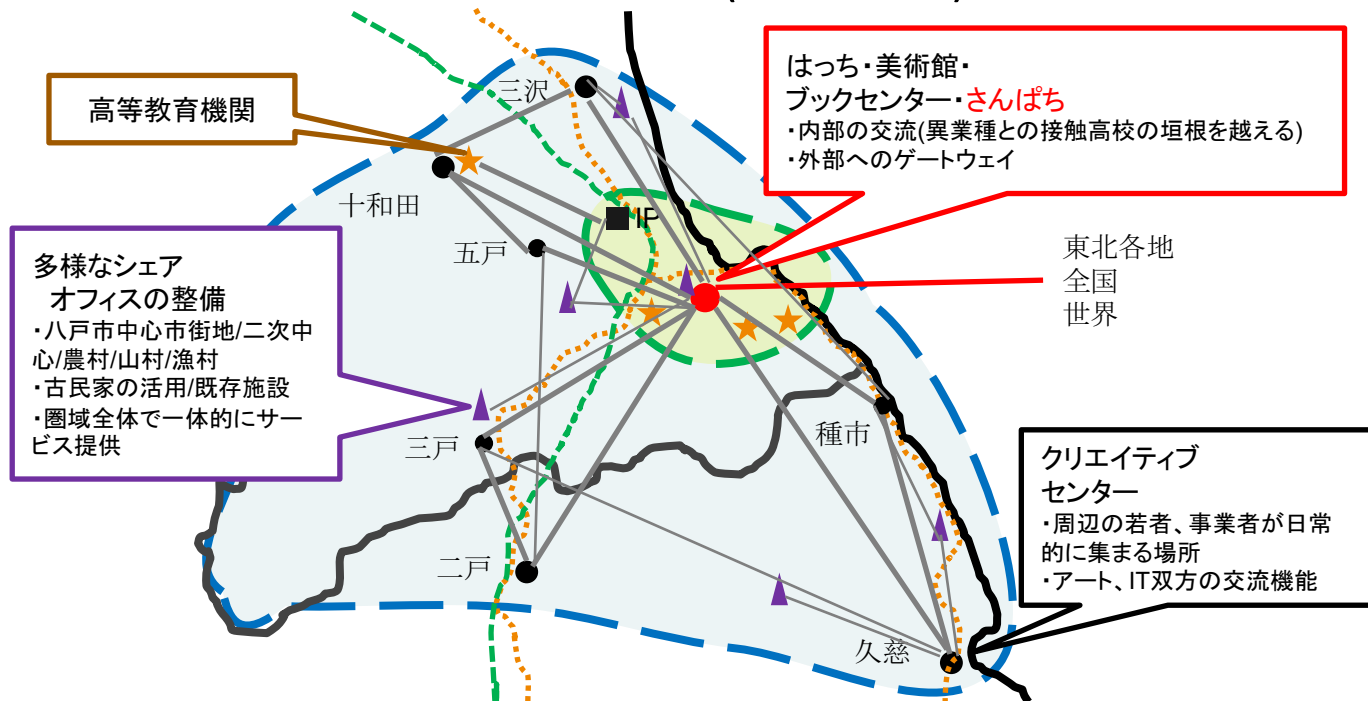


八戸の位置

広域全体像

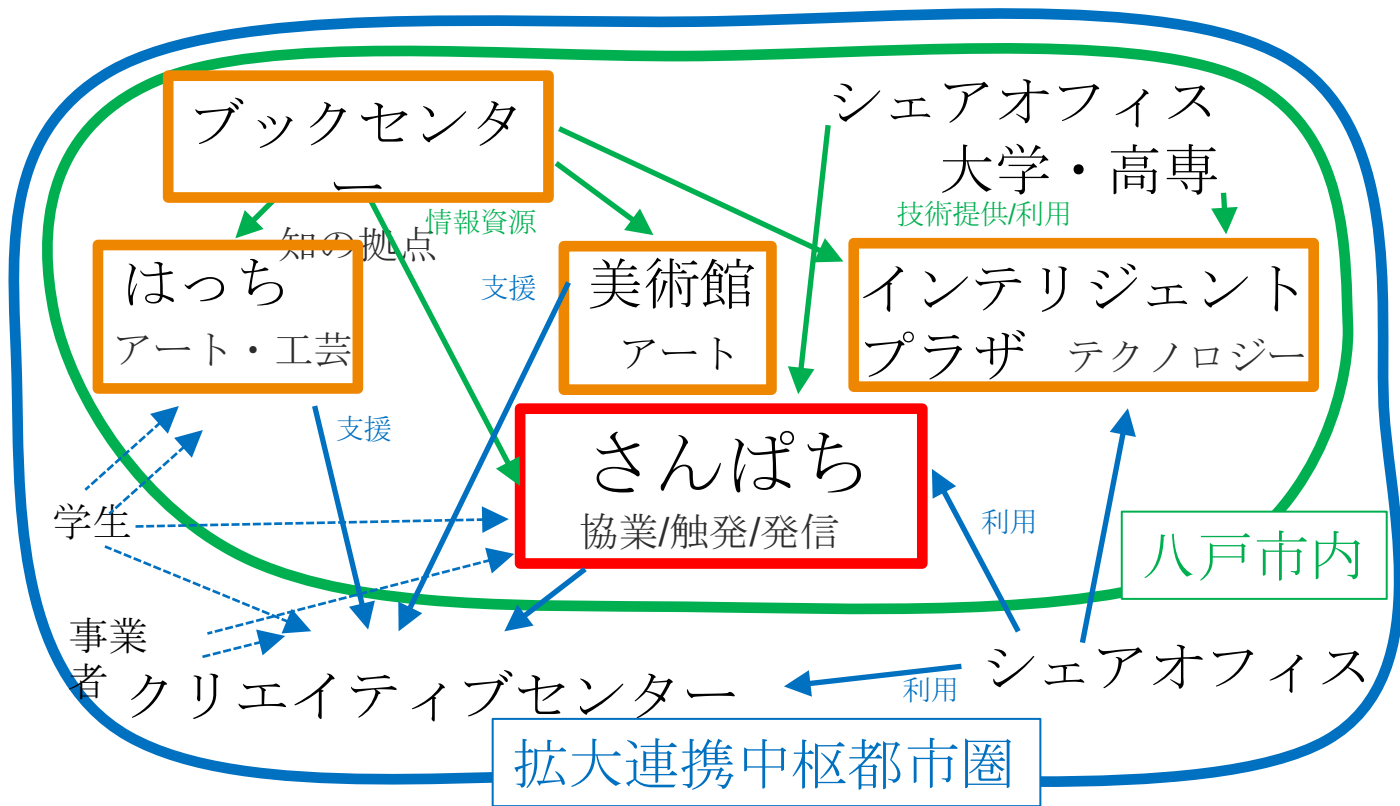
テーマ3 (イノベーション)

- クリエイティブセンター/シェアオフィスの整備・ネットワーク化
- 圏域全体で若者を育てる仕組みづくり
- ハブとしての柏崎小学校跡地(さんぱち)



機関相互の連携イメージ

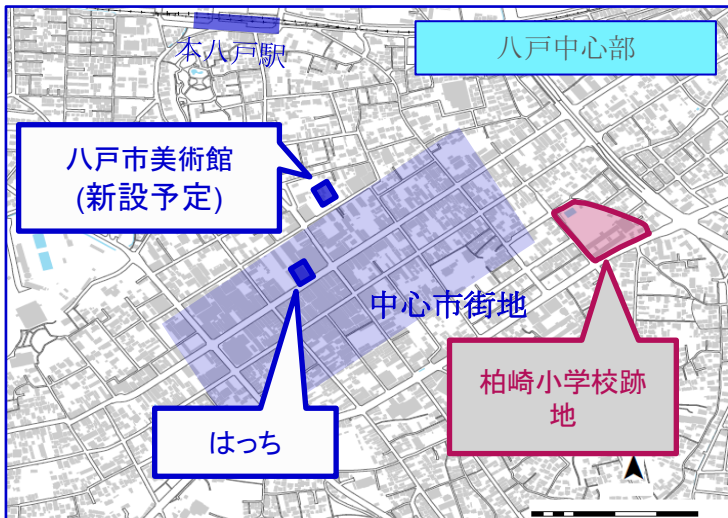
・はっち、美術館、インテリジェントプラザ、さんぱちが各分野の中核、ブックセンターが知的基盤として機能



敷地の状況

今回の提案では市街地東部にある柏崎小学校校跡地を圏域のコア・ハブとして利用

- ◆ もともと溜池だった場所であるため、地盤沈下の問題があり、大規模な建築物は設置不可
緑の拠点としてのポテンシャル？
- ◆ 中心市街地から徒歩可



テーマ3 (イノベーション)

柏崎小学校跡地



「さんぱち」デザインコンセプト



- ・ 小学校としての記憶の継承
- ・ 交流を生む明るい内装

- ・ 豊かな自然と都市の調和
- ・ 木組みの軽い建築物

「さんぱち」の機能

1. コワーキング

- 進出計画中のIT企業などの利用
- 古民家リノベーション等により都市圏各地にシェアオフィスを展開
- シェアオフィスネットワークのハブ

2. コラボスペース

- 企業、学校の垣根を超えて。

3. サテライトキャンパス

- 大学、高専の中心市街地拠点
- IT分野、ロボット分野などでの研究教育

4. ワークショップ

- 中高大学生のクリエイティブ教育

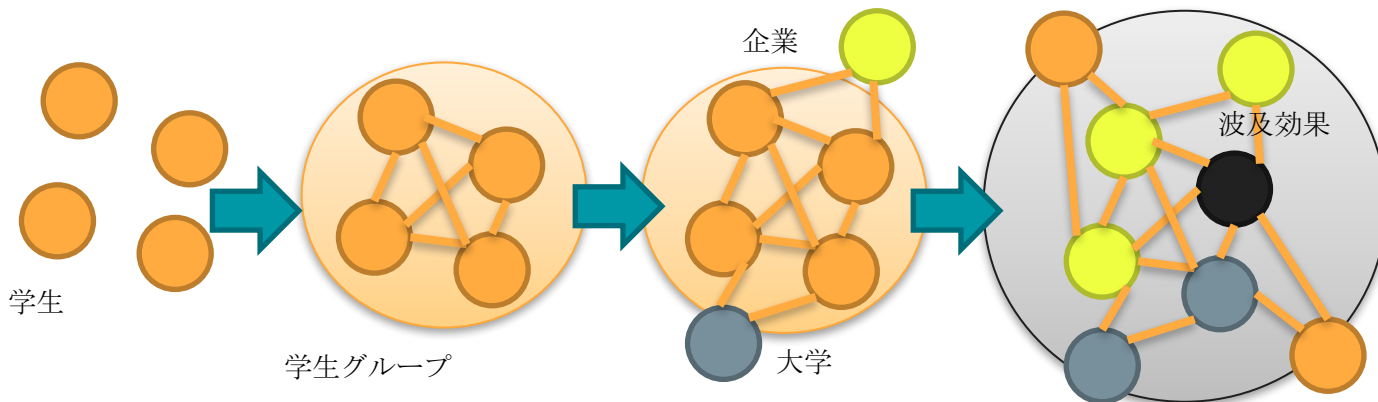
5. ラボ

- 中高生、大学生、市民が3Dプリンターなど最新のテクノロジーを使ってアイデアを実現。

さんばちが創造性の拠点に。

■八戸圏域内の学生の利用による創造性の拠点に。

1. 高度なクリエイティブ教育
2. 学生間の自発的なグループ形成によるアイデアの発現
3. 大学・企業との連携によるアイデアの実現
4. 地域で活躍する人材の育成



さんぱちのマネジメント

連携中枢都市圏の
高次都市機能として位置づけ
補助金の活用

八戸市

八戸市内の大学・高専

近隣市町村

「さんぱち」(八戸市直営)

世界的プラットフォーム
の利用

シェアサービス企業
(Airbnb、タイムズ等)

教育への参入
人材育成・発掘

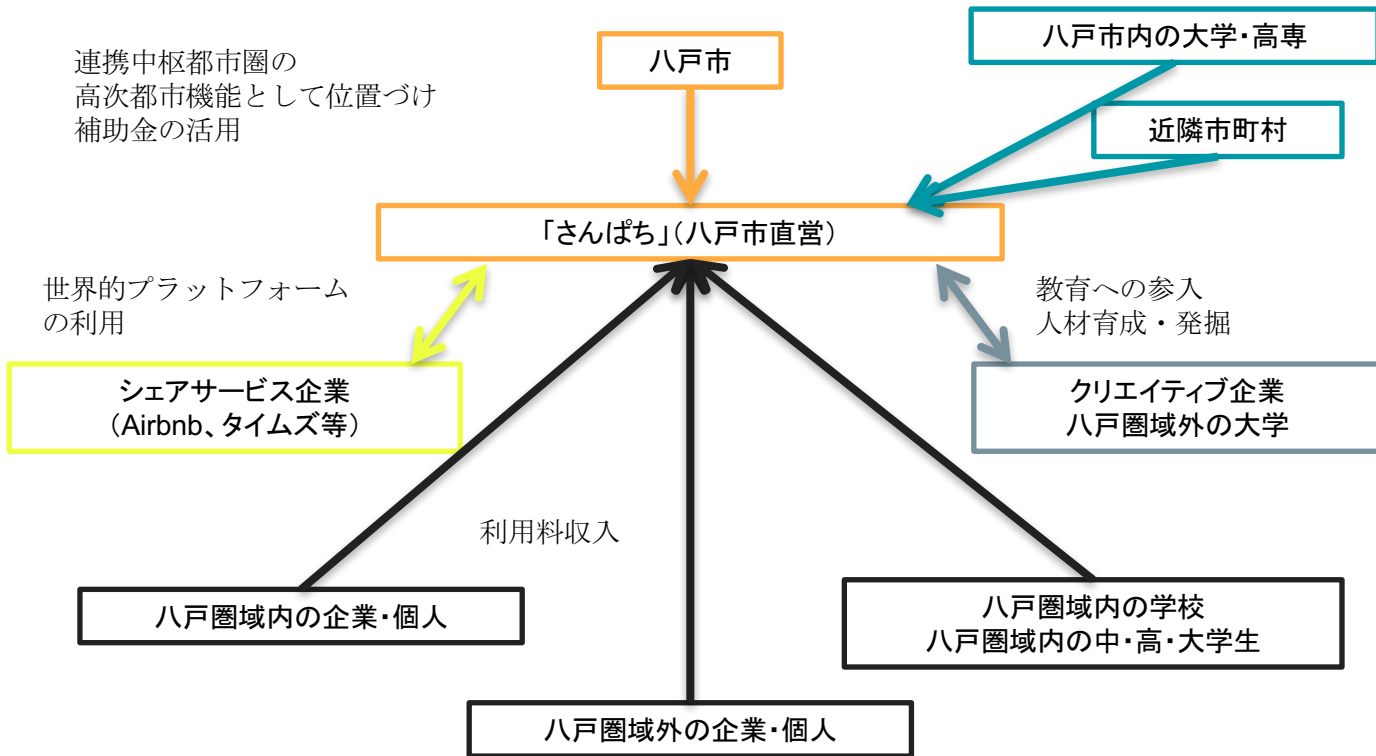
クリエイティブ企業
八戸圏域外の大学

利用料収入

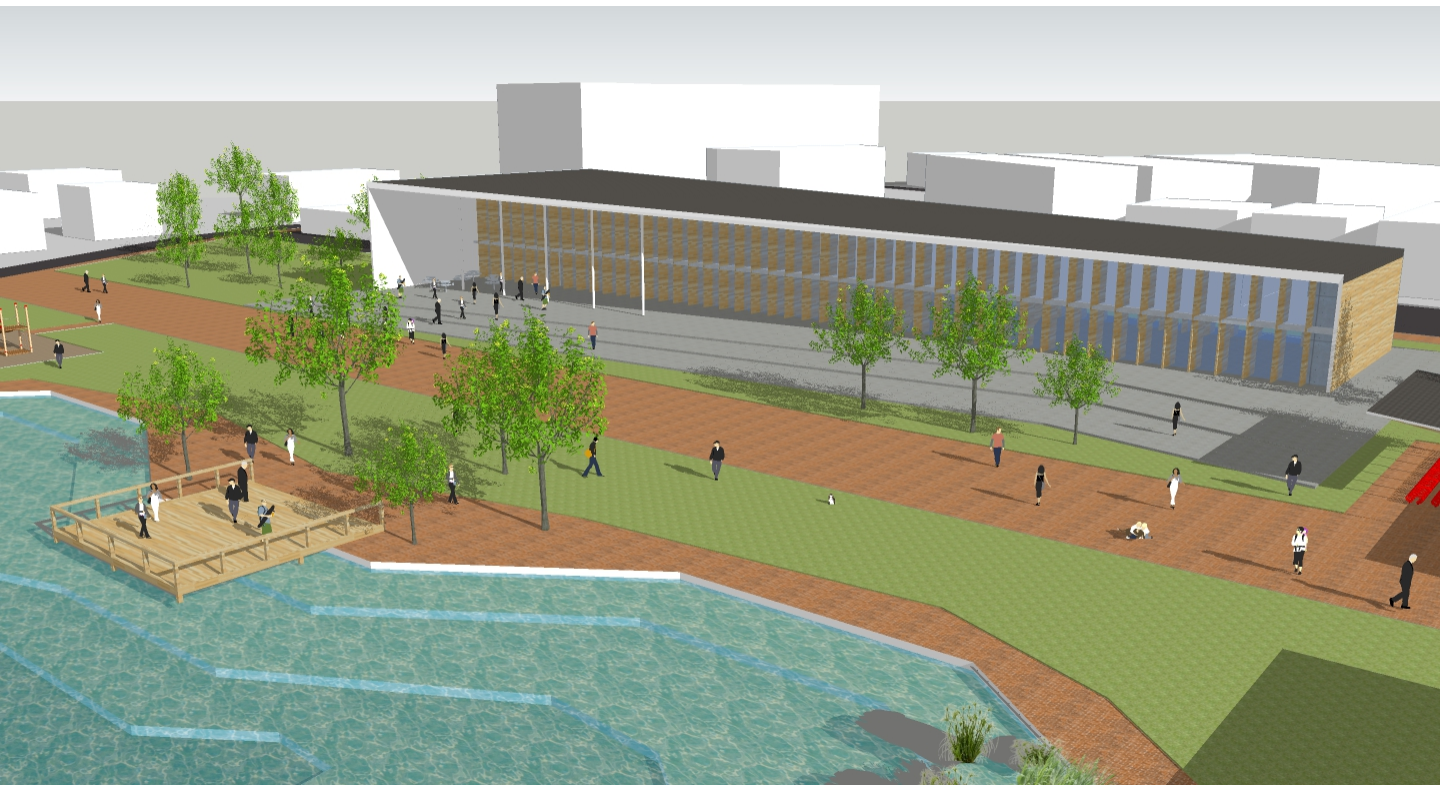
八戸圏域内の企業・個人

八戸圏域内の学校
八戸圏域内の中・高・大学生

八戸圏域外の企業・個人



さんぱちデザインのイメージ



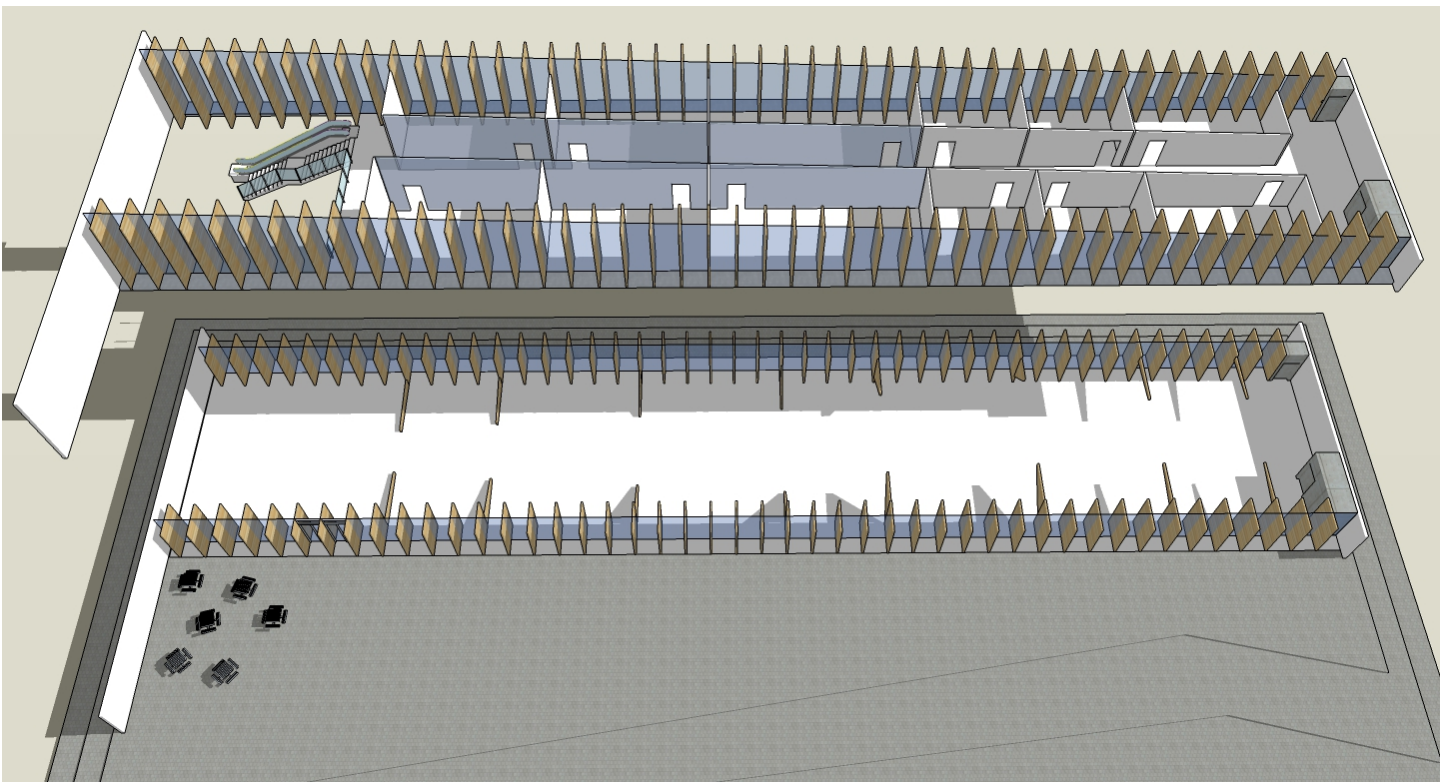
さんぱちデザインのイメージ



さんぱちデザインのイメージ



さんぱちデザインのイメージ



さんぱちデザインのイメージ



おわりに

八戸では、「はっち」のみなさま、「まちぐみ」のみなさまにたいへんお世話になりました。改めて感謝申し上げます。

本当にどうもありがとうございました！